

ロータリー財団月間 世界インターアクト週間

国際ロータリー第2660地区 ガバナー

福家 宏



ロータリー財団月間

2010年7月から有効となったRI戦略計画は、RIとロータリー財団それぞれが進むべき道が一致するように練り上げられたものです。そのうちロータリー財団が実施した大きな変革がFVP「未来の夢計画」であります。3年間のパイロット期間を経て、いよいよ今年度から全世界でFVP「未来の夢計画」が始まりました。今年2月には皆様に補助金管理セミナーを受けて頂き、クラブと地区の間でMOU(覚書)を交わしました。そして昨年度は地区補助金の計画年度でありましたが当地区内では44クラブが地区補助金の申請をされ、これを地区がロータリー財団に対して一括申請を行いました。この申請は承認され7月には補助金が地区に届きました。またグローバル補助金には8件の申請があって、4件もの申請がロータリー財団から承認を受けております。私は今年度の地区方針と共に、5つの目標をお示し致しましたが、そのうちの一つがFVPの成功であります。我が地区は初年度から「成功」が確信出来る状況となっております。これは地区内クラブ様の熱心なお取り組みと、地区ロータリー財団委員会補助金部門の皆様、献身的なご努力の賜物であると、私は感謝致しております。

ここでロータリアンの寄付とDDF: District Designated Fund(地区財団活動資金)について私の考えを述べさせていただきます。先ず私たちの年次基金寄付や恒久基金は、ロータリー財団の組織やプログラムを根幹から支えているものであります。これまでにロータリー財団はどんな業績を残して来たでしょうか?最初の事業は国際親善奨学生派遣です。1956年から1966年の間に、研究グループ交換、技術研修奨学金、活動補助金(後のマッチング・グラント)の3つの新しいプログラムが開始されました。1978年には保健、飢餓追放、人間性尊重(3-H)補助金プログラム、1984-85年度にはポリオ・プラスの設置が発表され、その翌年、大学教員のためのロータリー補助金が設けられました。1987-88年度には初の平和フォーラムが開催され、こ

れが後になって財団の平和および紛争解決研究プログラムの創設を現実のものとなりました。

例えば3Hプログラムはフィリピンで200万人の子供たちへのポリオ・生ワクチン接種を成功させましたが、これは単なる1例であり、上述した素晴らしいロータリー財団の各種プログラムは到底一つのクラブだけの寄付金や活動では成し得るものではありません。全世界のロータリアンが寄付金を拠出しているからこそロータリー財団は活動し続けることが出来るのです。

年次基金や恒久基金への寄付金は3年間留保ののち、私たちのロータリー財団活動の原資として年次基金の50%、恒久基金利息の50%をDDFとして利用することが出来ます。そして今年度からDDFの最大50%までが、地区補助金として利用可能となりました。グローバル補助金の場合も、これまでのマッチング・グラントと同様にDDFを利用出来るだけでは無く、クラブ拠出金の半分およびDDFと同額のWorld Fund(国際財団活動資金)をさらに付加してもらえるわけです。だから1クラブでは到底取り組むことの出来ないプロジェクトが実現可能となるわけです。

ロータリー財団を理解し、プログラムを実践するロータリアンを中心に財団への支援は飛躍的に増えていきました。現在までに、100万人以上がポール・ハリス・フェローとして認定されています。ポール・ハリス・フェローとは、年次プログラム基金に1,000ドルを寄付した個人、またはその名義で寄付が行われた人に与えられる称号です。ロータリー財団の未来が確かなものとなり、今後も国際理解と世界平和の実現に必要な活動を続けていくことができるのは、こうした力強い支援と世界中のロータリアンによる積極的な参加のおかげなのです。

ロータリー財団月間

ロータリー・ジャパンの解説を引用しますと、インターアクトクラブ(Interact Club、IAC)とは、奉仕と国際理解に貢献する青少年のための、ロータリー

クラブ(RC)提唱の世界的団体で、高校に在学中の生徒、または年齢12~18歳までの青少年が入会できます。Interact という名は「国際的活動」International Actionを意味します(2010年1月の国際ロータリー理事会で、インターアクターの会員資格の最低年齢が14歳から12歳へ引き下げられることが決定しました)。

1959-60年度の国際ロータリー(RI)会長・ハロルド・トーマスは、世界各地のロータリアンが共通して「ロータリーは青少年奉仕を開発する力を、十分に発揮していない」という気持ちを抱いていることに気づきました。そうした中で、世界中の青少年が共に活動できるような組織をつくろう、という機運はますます高まり、トーマスRI会長は1960年、5人のロータリアンからなる委員会を発足させました。2年後の1962年、RI理事会により、インターアクトプログラムが宣言され、この年、理事会は初めてのIACの発足を認証しました。世界最初のIACは、アメリカ・フロリダ州メルボルンRCの提唱により10月28日に結成、23人でスタートしたメルボルン高校IACです。その後、IACは次々と広がっていき、現在では、世界各地で、青少年がさまざまなインターアクト活動を通じ、国際理解と親睦の輪を広げています。

さて当地区のインターアクト・クラブですが過去に

は大阪RCが大阪市立東中学校を、大阪南西RCが大阪教育大学附属平野中学・高等学校および四天王寺羽曳が丘中学・高等学校を、大阪阿倍野RCが大谷中学・高等学校を、大阪城南RCが明浄学院高等学校を提唱しておりました。現在は表の通りです。

提唱クラブ	インターアクトクラブ	設立年月日
大阪南	清風学園中学・高等学校	1975年 9月25日
大 東	大阪桐蔭中学・高等学校	1976年 7月 8日
大阪帝塚山	浪速中学校・高等学校	1982年 5月 5日
大阪天王寺	四天王寺高等学校・中学校	1982年 3月28日
八 尾	金光八尾中学・高等学校	2002年11月 5日
大 阪	相愛中学校・高等学校	2003年 9月 5日

当地区内には83のRCがありますが、提唱クラブは6クラブに過ぎません。

世界のインターアクターは次第に増えて32万人を超えている現状からすると、いささか淋しい感じが致します。地区内のどこかのクラブが、提唱クラブとして手を挙げて頂けることを念願せずにはおれません。

インターアクターは、将来的にはローターアクターに、そして更にはロータリアンになって頂きたいという思いもあります。インターアクト週間を機会に、一度皆様には、当地区のインターアクトについてクラブの中で協議の時間をお持ち頂ければ幸いです。